



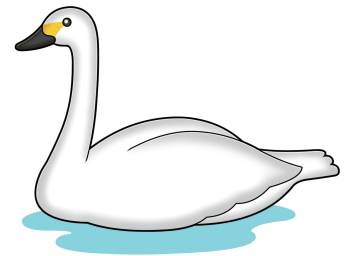
白鳥を見に行こう！

シベリアから数千キロの長い旅を終え、越冬のために新潟県にやってくる白鳥達。もっとも有名なのは阿賀野市の瓢湖で、最盛期には5000羽を超えることもあります。県内ではこの他にも、いろいろな場所で白鳥を見ることができます。

新潟市内では、鳥屋野潟、佐潟、福島潟でも1000羽以上の白鳥が羽を休めているとのこと。

ちなみに瓢湖の場合、朝6:30~8:00と夕方16:00~17:30頃がもっともたくさんの白鳥が見られるとのことですよ。

毎日9時、11時、15時の餌付けタイムも楽しみですが、白鳥達は近くの田んぼに行っているの、カモを見物することになりますね！



「Eco列車でいこう！」～第161回～ 蔵王の樹氷！

(CO2排出量の少ない交通機関での旅行や、心が豊かになるような旅行を照会するコーナーです！)



2月11日の土曜日、国道113号線経由で山形市へ向かった。山形市は四方を山に囲まれており、標高が約150mあるので気温が低く底冷えがする。人口は24万人で、そんなに大きな街ではないが、夜の繁華街はにぎわっていた。居酒屋で郷土料理を食べて地酒を楽しんだ。

翌朝、氷点下5度。市内は晴れているが、山の上の雲は厚い。

8:30に蔵王温泉に到着。駐車場代は1,000円。樹氷を見るためにロープウェイ代は3,500円だ。それほど長い行列では無かったが、ロープウェイの本数が少ないため、乗車までに50分程かかった。この後、2時間待ちになったとのことなので、休日は早朝から並ぶのがオススメだ。

2本のロープウェイを乗り継いで山頂駅へ向かう。2つ目の路線から樹氷原を見渡す。

山頂駅へ到着。帽子、手袋など防寒対策をし、スノーシューを履いて、すぐそこに見える地蔵岳を目指す。その先にある、蔵王山塊の最高峰「熊野岳」まで行ってみたいと思っていたが、とにかく風が強い。

樹氷が防風林の役目をしているようで、林間に入ると風も収まった。スノーシューで新雪を踏むのは楽しい。雪に埋まることなく気持ちよく登ることができる。

装備なしの観光客は、山頂駅周辺で楽しそうに写真を撮っており、中国語や韓国語も聞こえてくる。

地蔵岳山頂に到着すると、すさまじい風で恐怖すら感じた。熊野岳へ向かう猛者もいるが、我々はここで撤退する。スノーシューで右往左往して樹氷と戯れてから下山した。

すっかり冷えたカラダに、赤湯にある「いもせ食堂」さんの「半チャーハンセット」が沁みる。あっさりラーメンと基本に忠実なチャーハンがうまい。パワーをチャージして帰途に着いた。



ロープウェイから見る樹氷原



思い思いに樹氷を鑑賞



下山後はラーチャンで温まった